

令和5年度かわさき教師塾

☆『明日の先生日記』☆

子どもの笑顔が
あられるまち
かわさき



Colors, Future!
いろいろって、未来。

川崎市



『明日、子どもたちの笑顔の前に立っている私』をイメージする学び

11月18日(土) 子ども一人ひとりを理解し、一人ひとりを生かすという児童生徒指導の考え方、子ども理解に基づく学級経営、集団づくりについての講義とグループ協議が行われました。

令和5年11月18日(土) 日程

- 10:00 児童生徒理解
—子どもとの関わり方・向き合い方—
- 11:10 学級経営のポイント
- 12:00 ~昼食・休憩~
- 12:30~12:50 「教員採用試験個別相談会」
- 13:00 子ども理解と集団作り
- 14:45 振り返り・事務連絡 15:00 終了

事実は1つ、解釈は無数 思考が変われば行動が変わる



自己肯定感と自己有用感

- ・よいところを「褒める」で自己肯定感を高める
- ・他者との関わりの中で、「認められた」と実感して自己有用感が高まる

↓

自己有用感から自己肯定感へ

「間違いは宝物」……授業づくりの中で、間違えても大丈夫という雰囲気づくり、悪いところだけでなく良いところを認め、子どもの自己肯定感を高めていくようにすることで、集団づくりにつなげていくことが大切なんだと分かった。

室長の講義では、教壇にあって立たず、生徒たちの目線に合わせるといふ心掛が素敵だと思いました。



- まとめ
1. 子どもが安心して過ごす居場所づくり 絆づくり、集団づくり、授業づくり
 2. 褒めてのばす(間違えていることを直す) 自己有用感から自己肯定感を高める 自分も他者も肯定的に受け入れる
 3. 一人ひとりを大切に 登校した同じ状態で家庭に戻すでも、少しの成長(1対35と1対1)



その子のできること、できたことをしっかり受け止め、120%で「すごいね!」「よくできたね!」と伝えてあげることがやる気を作り上げていくのだと思いました。

1対35から1対1の視点という言葉でハッとしました。教育実習の先生が話された「子ども一人ひとりと1対1の関係を31つくるぞ!という気持ちで過ごしてほしい」と同じ言葉でした。

学級経営で重要なこと

選択できない出会いから始まる生活集団

認め合い・励まし合い・支え合える学習集団に変えていく

- ・自他の個性を尊重
- ・相手の立場にたって考え、行動
- ・相互扶助的で共感的な人間関係

☆早期に創りあげる☆

支持的な学級風土を!

まずは、教師自身が笑顔で、元気に児童の前に立つことが1番重要で意識していくことだと思いました。

先輩たちに質問してみた…「どんなときに学級(学級担任)が楽しいと感じますか?」

- 「なるほど」「わかった」「できた」「〇〇楽しかった」などの言葉を聞いたとき
- 子どもが仲間のため、クラスのために自分から行動できるようになったとき
- 子どもが自分たちで動き、自分たちの力で課題を解決しようとする姿を見ることができたとき
- みんなでクラス集会を開いて、友だちと思い切り楽しんでいる姿を見ているとき



「失敗を認め合える学級」は、挑戦しやすい雰囲気を作るためにも、自己肯定感を育てるためにも、自分の目標にしたい。

学年によって対応の仕方や手立てに違いがあると思う。なので、子どもたちの思いや願いに気付くよう、日頃から子どもたちのことを知ろうとする姿勢や関わりを大切にしたい。



参加者全員が真剣に今日のテーマや教育について考え、表現していて、とても濃い有意義な意見交流ができ、集まった人たちの志の高さをひしひしと実感できました。



教師は、見えないものを見ようとする姿勢、努力がすごく大事だと感じた。

教師塾開催日、研修室の隣で悠悠広場の作品展が開催されており、力作が数多く展示されていました。受講生から「色遣いがとても素敵でした」等の心温まるお褒めの言葉をいただきました。【悠悠広場(教育支援センター)は、市内6カ所に設置されている不登校児童生徒の学校以外の学びの場です。】

良いことには副作用がある

令和6年1月20日(土) 17時~19時、かわさき宙と緑の科学館にて、「教員志望者向け説明会」が開催されます(Webサイトからの事前予約制)。世界最高クラスの星空が投影されるプラネタリウム上映も予定されています。

昼休みに、教員採用試験個別相談が行われました。日頃から思っていることや気になっていることを聞き合える貴重な場であり、12月16日(土)1月20日(土)も実施予定です。

